

公表

放課後等デイサービス 事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドハート唐津		
○保護者評価実施期間	令和6年2月1日		～ 令和7年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	49名	(回答者数) 32名
○従業者評価実施期間	令和6年2月1日		～ 令和7年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月14日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	適切な職員配置数と専門職員の配置	<ul style="list-style-type: none"> 職員が働きやすい環境作りを行っている(離職率減) 専門員の知識・技術向上の機会を設けている 	<ul style="list-style-type: none"> 職員一人一人の積極的な取り組みを支援していく 専門員だけでなく、指導員に対しても知識技術の向上に努めていく
2	子どもたちが主体的に活動出来る環境作り	<ul style="list-style-type: none"> 活動に関して選択出来るスケジュールを設定している 高学年を対象に活動を考えたり、話し合いスキルの支援を提供している 	<ul style="list-style-type: none"> 活動内容の幅を広げる 高学年だけでなく、低学年にも活動を考える機会を取り入れる
3	体験学習が充実している	<ul style="list-style-type: none"> 学校休業日を利用し、自然体験、乗馬体験、クッキング、季節の行事活動等の多くの体験学習を取り入れている 	<ul style="list-style-type: none"> 学校休業日での活動のため、利用者が限定されるため、平日短時間でも可能な体験学習を検討していく

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	関係機関との連携不足がある	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関(小学校等)の放課後等デイサービスの理解が不足している 	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関へ出向き、放課後等デイサービスに関して説明を行うとともに、関係機関連携の利点を伝える
2	1人当たりの利用回数、その他のサービス件数(家族支援、関係機関連携等)が少ない	<ul style="list-style-type: none"> 契約者数の多さ 	<ul style="list-style-type: none"> 特性に合った事業所の検討を行う 保育所等訪問事業への移行の提案を行う
3	職員間の情報共有不足	<ul style="list-style-type: none"> 職員によって保護者、関係機関への対応が異なることがある 新人職員の教育不足 支援後の終礼時間(ミーティング)の不足 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者対応、関係機関への対応のマニュアル化を行う 新人職員教育の充実を図る 空き時間の利用及び情報共有ツールの活用を行う

公表

放課後等デイサービス 事業所における自己評価結果

公表日 令和7年2月14日

事業所名	チャイルドハート唐津				
チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	7	児童の人数によってはパーティションで区切り、安心して落ち着ける工夫を行っている。	個別のスペースをとることが難しいため、課題となっている。	
	2	5	2	配置数は適切であるが、より質を上げるためにもう1名は必要。 送迎にて職員数が不足する。	送迎要因として配置数増を検討している。
	3	7	学習室、プレールームの区別化、段差等の解消を行っている。	事業所のスペースが限られているため、静と動の空間を作ることが課題となっている。	
	4	7	5S活動（整理・整頓・清潔・清掃・躰）に積極的に取り組んでいる。	職員からお子様へ意識を定着していきたい。	
	5	7	個別の部屋が必要なお子様には、パーティション等で区切りをし、個別で過ごせるスペースを確保している。	相談室の活用も検討している。	
業務改善	6	7	行っている。	周知が不足していることもあり、今後の課題。	
	7	6	1	アンケート結果表をもとに職員間で情報共有し、改善を図っている。	改善事項の周知までには至っておらず、今年度より行う。
	8	7	定期的な職員面談、職員間での評価を実施している。		
	9		7	行っていない。	必要あれば今後検討する。
	10	7	7	フランチイズグループ全体での研修、専門員内での研修、個々の研修など様々な研修を行っている。	個々の能力を発揮できるよう、より積極的に研修を受けることが出来るよう配慮したい。
適切な支援の提供	11	7	作成、公表している。	定期的に職員間で検討していく。	
	12	7	作成している。		
	13	5	2	行っている。	
	14	7	7	行っている。	
	15	7	7	連絡帳にてお子様の情報共有を行うとともに、日々のミーティングにて行動観察を行っている。	行動観察に関してはアセスメントの使用はなく、行動観察にとどまっている。
	16	7	7	本人支援の5領域に関しては明確に区別し、目標設定を行っている。	
	17	7	7	管理者、専門員を中心に職員全員にて立案している。	
	18	7	7	その日のお子様にあったプログラムを提供出来るよう、常に検討・改善を行っている。	時間、場所の問題で活動の幅が限られており、課題となっている。
	19	7	7	基本的には集団活動、小集団活動を中心に行い、お子様の状況に応じて個別活動を取り入れている。	

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		業務分担を行い、お客様の状況を共有し、準備を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	1	基本的に、翌日の朝のミーティングにてヒヤリハット・事故報告を含めた共有、振り返りを行っている。重要性の高いものは当日行っている。	営業時間の関係から支援終了後に十分に行えないため、情報共有ツールの活用も取り入れている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	1	支援計画書をもとに、支援の記録を行っている。	記録内容に関して、職員によっては行動観察のみの場合もあり、分析まで行えるよう指導していく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		最低でも半年に1回実施している。また、必要な場合はその都度見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	7		特に「多様な遊び・体験活動」「主体的な活動」に重きを置き、支援を提供している。	平日、学校休業日の支援内容に差があることが課題となっている。平日は時間の都合上、活動の幅が狭まる。
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7		4つの基本活動における「主体的に参画出来る活動」を通して自己決定の育みを支援しているとともに、日頃から活動を選択出来るようプログラムを作成している。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	1	基本的に管理者が参画している。	現場の指導員が参加することは難しいことが課題となっている。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		障害福祉、保健医療等の行政との連携や教育機関との連携に関しては管理者が行っている。	連携が不足していることが現状の課題となっている。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7		定期的に管理者が行っている。	連携が不足していることが現状の課題となっている。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	2		保護者からの情報によるものが多く、不足していることが現状の課題となっている。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	1	前例はないが、必要あれば行っていく。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	3	研修に参加している。	不足しているため、積極的に連携を図っていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	2	学校休業日を利用し実施している。	開催日が限定され、全てのお子様を対象と出来ていない。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6	1	管理者が部会長を務めており、積極的に参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	7		送迎時や連絡帳を通して、保護者とのコミュニケーションを大切にしている（話す内容を整理している）。	職員間でばらつきがあり、統一する必要がある。
保護者への説明等	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	2	保護者会や個人面談を通してペアレントプログラム等の情報提供を行っている。	来年度より、ペアレントプログラムを実施予定としている。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		計画書作成時にお子様、保護者の意思・要望を聞き、優先的に計画書に盛り込んでいる。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		計画書説明、同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		都度、面談を行い、助言・支援を行っている。	可能な限り迅速に対応しているが、保護者の要望を満たせないこともある。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	5	2	2カ月に1度、保護者会を実施している。	人数、場所の関係から全員を対象と出来ないことが課題。また、各回においてアンケートを参考にテーマを決めているが、保護者の要望を満たせない場合もある。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		苦情・相談窓口を開設している。また、第3者機関も紹介している。	

非常時等の対応	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5	2	SNSを通して活動の様子を配信している。	不定期に配信しており、不足している。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		契約時に契約書、同意書を用いて説明し、十分に配慮している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		行っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	3	地域住民を招待する機会は少ないが、機会を得た時は風通しの良い環境を意識し運営を行っている。	
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	1	マニュアル策定はしているも、家族への周知は不足している。	保護者会等で周知していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	1	計画を策定し、最低でも年に1回に研修、訓練を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5	2	服薬、てんかん発作等の状況把握は行っている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	2	該当するお子様はいない。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		安全計画を策定し、計画に沿って研修、訓練を行っている。また、保護者会を通して周知を行っている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	1	安全計画にて策定しており、周知を行っている。また、引き渡し訓練等で保護者の協力を仰いでいる。	
52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		ヒヤリハットを積極的に提出するようにしており、事故防止に努めている。		
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		委員会、研修を行っており、職員の意識の向上に努めている。		
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6	1	該当するお子様はいない。		